

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0370800229
法人名	医療法人社団 敬和会
事業所名	グループホーム とおの
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩13-30-8 (電話) 0198-60-1271

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	- 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠野病院、菊池俊彦内科クリニック、六角牛病院、両川歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>県立遠野病院や白岩保育園・遠野健康福祉の里が近在し、周囲を畑に囲まれ、遠く早池峰連山を望む、のどかな昔ながらの風景の中で利用者も職員も朗らかに過ごしている。北上市に本部を置く医療法人社団敬和会に属し、介護老人施設保健とおのと隣接し連携が図られている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員共に話し合いを持ち改善に向け努力されていた。理念は話し合いを持ち、特に変更はしなかったが、その中で今年目標のような事項を決め、地域密着への取り組み等、明確な目標を明示することもよい方法と思われる。また、小遣い等の家族への報告などについては、レシートを送付するなど小さな工夫により、更なる改善の余地があるように思われた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員共に自己評価し、話し合いを持つことにより仕事の見直し・出来ていること・不足していることなどの見直しの機会となった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長・地域包括支援センター・案山子の会・白岩保育園園長・家族の会代表・民政委員等の主席により、地域事業への参加や、地域と一体となった避難訓練への意見が聞かれている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>特に、ご家族からの意見や苦情はない。毎月、請求書と一緒に近況を知らせたり、ホーム便りを送付している。「家族交流の機会をもちたい。」と考え、今年度の目標として、多くの意見が聞けるように努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>のどかな土地柄でもあり、ゆっくりとではあるが、地域からの協力や馴染みも出てきている。自治会で主催している、ふれあい事業「案山子」への参加や秋祭りの踊りの場の提供など、地域交流への取り組みをしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年度初めに話し合いを持ち、職員で共有している。その人らしさを大切に(地域の中で)明るく共に笑顔で過ごせる安らぎの家を理念としている。(地域の中で)は明記されてないが、心がけるよう話し合った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、カンファレンスの中で話し合いを持っている。理念は常に同じでも、その中でどのように取り組んでいくことにするか、目標を決めて、理念の達成に取り組まれるのも良い方法と思われる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会費を払い、自治会主催の「案山子」の集まりに毎月2、3名で参加している。また、遠野祭りの踊りの練習場に庭を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	木曜日に2回ほど集まりを持ち、全職員で話し合いをまとめた。改めて自分たちの仕事の見直しが出来た。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・包括支援センター・民生委員・家族の会代表・職員の参加により、地域活動の情報を得て「案山子」に参加するきっかけとなり、利用者と共に参加している。議題により消防署や案山子から運営推進会議に参加し、意見をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他地域に住民票のある方のグループホーム入所(利用)の希望対応など、疑問が生じた時に相談している。また、2級ヘルパーの講師の依頼があるときは協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めにホーム新聞、手紙、預かり金の現金出納帳の写しを送っている。		現金出納帳の写しの他に、レシートを一緒に送付したり、面会時に確認印を頂くと、より明確になると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度の目標として「家族交流を多く持ちたい」と掲げた。ご家族が遠方に住んでいる家族もあり、手紙やアンケート等により家族が参加出来るようにするなどの取り組みも効果的と思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設4年の中で、2回の異動があった。また、産休の予定もあり、代替えとして臨時職員が採用されている。新しい職員が慣れるまで、2名で一緒に仕事をしていき、引き継ぎしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内のあるときには、出来るだけ参加している。参加してきた職員はホームの会議で報告をし、共有に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	遠野市の研修では、他の事業所の交換研修が行われ参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所(利用)前に見学に来てもらい面談している。お茶を飲みながら、他の利用者と会話を持っていただけるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が若いこともあり、利用者から教わることは多い。特に、畑仕事は種選びから教わっている。蒔(フキ)の皮の取り方、大根を干すときの藁(ワラ)での結び方、お供えの取り方等、常に生活の中で教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所(利用)時や、日々の生活の中で傾聴に努めている。昔の話を引出し、お話して貰うことにより、穏やかに過ごされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向を聞いている。サービス計画で確認した。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標として半年に1回、短期目標として3カ月に1回見直しをしている。状態の変化のある時には適宜、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊希望や食事を一緒にしたい等の希望のある時には対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として家族通院となっているが、遠方に住んでいる家族や緊急の時は職員が通院対応をしている。入所(利用)時に確認し、かかりつけ医に継続して通院している。また、1名訪問看護を利用している利用者もいた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	気持ちとしては取り組みたいと思うが、現状では出来ない。出来るだけ状態の維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	指針を作成し、説明によりご家族からの同意が得られるよう取り組まれることで、家族のグループホームへの理解や体調が悪化した時の心構えもできるのではと、思われる。今後の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	様々な記録物を出したままにしない。他の利用者が聞いている時もあるので、内容に注意した声掛けを行うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な外出希望にも出来る限り対応している。利用者一人ひとりのペースを大切にしている。認知症の症状等により、急に怒り出し、外に出ていく利用者を見守りながら、少し離れてついて行き、落ち着いたところを見計らい声をかけて一緒に帰ってくる事もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、月・水・木・日に行い、職員と利用者で出かけている。男性利用者には大根おろしを手伝ってもらう等、利用者個々に役割のある生活をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性利用者は男性職員が声をかけると比較的スムーズに入浴される。特に、畑仕事や掃除などをした後には、拒否なく入浴されるなど、個々の利用者の特性に応じて、入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝のごみ出しや、ふれあいホーム案山子に出かける。図書館に行き本を借り、読書を楽しんでいる方、写経やぬり絵をする方、部屋の掃除やモップ掛けをする方、食事の準備や片付けを行ってくれる方等、一人ひとりの利用者の出来ることを大切に役割や楽しみが持てるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由にウッドデッキから出入りされている利用者もいる。自宅に草取りに行きたいと希望があり、出かけることもあったが、現在は聞かれなくなった。隣接している老人保健施設に遊びに行ったり来たりしている利用者もいる。希望があるときは出来るだけ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置している。ホールから続いているウッドデッキからは自由に入出入りできる状況となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回避難訓練を行っている。消防署より家具の転倒予防のアドバイスを受けた。隣接している老人保健施設からは、夜間の災害時には職員一人が協力出来る体制となっている。道路状況にも依るが、訓練では10分後に職員が駆けつけることが出来た。	○	災害時には近隣から協力をお願いできるよう、運営推進会議等を通じて働きかけ、協力隊が出来ると夜間の災害時にも安心出来ることと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録で確認した。栄養バランス面については同法人の栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは細やかな配慮のある設計となっている。また、ホールからウッドデッキに自由に入出りができ、豊かな自然の中で季節の移り変わりが肌で感じられる造りとなっていた。	○	季節柄、洗濯物の乾きやすさもあると思うが、廊下に干してあることで、来客されたご家族は雑然とした印象を受けるように感じた。洗濯物を干したり今使わないものを収納するような場所の工夫が欲しいように感じられた。今後、検討して行って欲しいと思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは備え付けとなっている。テーブルや、椅子、写真を持ち込んでいる利用者もいた。		